

はぐくむ光のびる若芽

(251)

橋場 曲山 博

我が家は、小学3年生になる9才の息子と幼稚園に通う5才の娘、そして母と私たち夫婦の5人家族。どこも同じだと思っ

たが、どうしても子供中心の生活になってしまう。平日の朝は息子を起すことから始まる。寝起きが悪いので起こすのも一苦労だ。息子の行動はユニークで面白い。しかし、我が子となると何も言っ

てはいられない。いつもハラハラさせられる。友達に、「習い事だ野球だサッカーだ」と忙しそうだ、息子の頭は遊びのことでいっぱい。私は説明書などを読むことが億劫になつてきた。先日買った携帯電話のマニュアルは捨てたくなつた。しかし、息子ときたらゲームの攻略本などを買い込んで夜遅くまで熱心に研究している。そのエネルギーを勉強にスポー

ツに、などと考えるのは幼稚園から小学生まで

子供中心の生活

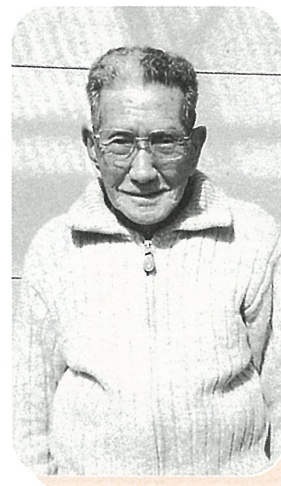


子供の年齢差は10才位だが、私は今年で46才になつてしまつたが、年をとつていくからといって子供のことをよく理解しているわけではない。子育てに関しては、20代のお父さん、お母さんと一緒に、いまだに模索している。

「中学になつたら親と話などしないし、高校になつたら家なんか居ないぞ」同年代の友人達が驚く。我が子もいずれそうなるかと思つた。

今のうちに子供と遊んでおきたい。毎日なにげやかな、子供中心の生活もけして悪くない。「他人事のように何を言っているの」。妻のため息が聞こえてきそうだ。

今月の顔 シリーズ ⑧



大谷 武彦 さん (84歳)
(関)

長寿の秘訣

3月3日生れで酉年の大谷さんは、年男の84歳。光町に住んで23年。日々ボランティア活動に打ち込む大谷さんに長寿の秘訣をお伺いしました。

◎ボランティア活動から

大谷さんから名刺をいただいて驚いたことは、現在光楽園老人ホーム後援会長をはじめ、4つの役職をもち日々活躍されていることでした。「これでも半分には減つたのですよ。」と笑いながら話す大谷さん。それぞれの活動に力を注ぐ姿には年齢を感じさせない活力がみなぎっていました。関地区では「千寿会」としてボ

ランティア登録した仲間達が白浜地区の道路の清掃を行ったり、栗山川環境ボランティアとして川の環境美化に協力したり、老人クラブが月1回公民館掃除を実施する活動を行っています。

◎我が身を地域、人々のために

みなさんはボランティアをどのように理解しているでしょうか。ここで大谷さんの執筆された記事から一節をご紹介します。思います。「遠い親戚より近くの他人」と昔の人はよい言葉を残しております。私達は「自分でできるボランティア、地域の為の奉仕、1人で無理ならグループで」と、自分たちには気づかぬボランティア活動に参加しています。隣組の組長さんの用務も立派なボランティア活動なのです。ボランティア活

とはラテン語「ボランティア」自由意志という意味だそうです。

戦後60年を迎える今年、今でも薄らぐことのない戦争を、生きて今ある現在、我が身を地域、人々のために還元していかねければならないという強い想いがある大谷さん。「振り返つたら84歳になつていましたよ。」と、人生を前向きに暮らす姿を教えていただきました。光町の老齢人口も25%を越え4人に1人が65歳以上という時代に、自分なりにボランティアを考えてみてはいかがでしょうか。

◎禁煙して

一日20〜30本吸っていた大谷さんは、2年前腰椎骨折で入院したことをきっかけに禁煙しました。長年吸っていた煙草はストレスやイライラがあるという手が出て、今までなかなかやめられませんでした。自分には聞かせ、今日禁煙できたそうです。また、喫煙後は町の肺がん検診(痰の検査)を欠かさず受診するようになったそうです。

これからも益々のご活躍を期待しております。
(保健師 土屋)